

牧師室から (2022.10.23)

義父は1年近く闘病の末、先月逝去したが、一人残された義母のことで、津田沼の実家に往来する生活が続いている。うちのワンちゃんメグは実家に行くと、走り回れる庭があるし、世話好きの義母に甘えながら毎日遊ぶのに忙しい。何よりも家の前の道が通学路で、子どもたちに会うのを楽しんでいるようだ。

朝になると、10人位の小学生が集まって来て、メグに声を掛けたり、柵の隙間に手を出してメグの体を触ったりしている。名札を見て名前を覚えたようで「メグ、メグ」と呼ぶと、メグも嬉しそうで離れようとしない。学校帰りの時は一人、二人ずつ近づいてきて、しばらくメグと向かい合って遊んでくれる。その故か、メグは家の中に入ったり、庭に出たりしながら、時には柵の前に座り込んでいて、誰かを待っているかのようである。

小学校3年生のある男の子は、学校の行き帰りに必ず来てメグを触りながら暫く座っている。何回か会ううちに、家は別の方向にあるがメグに会いたくてわざわざ来ることが分かった。見つめ合う二人(?)の姿が絵のようである。メグといるのに時間を忘れていたようで「学校に遅刻するよ」と義母が心配になって声をかけると、急いで立ち上がって学校に向かって走る。

いつの間にか、メグが子どもたちの人気ものになり、多くの子どもたちが訪れるのがメグだけではなく、私にも楽しみの一つになっている。

しかし、それを見ながら、教会学校にもこのように子どもたちが寄ってきてくれればいかに良いかと、寂しい気持ちになる。

子どもたちがわざわざ来なくなる教会学校の魅力をどのように作ればよいのかが、緊急の課題である。皆さま、お祈りください。

(鈴木善姫牧師)